

# かいほう

東京都公立小学校事務職員会 会報 第176号

[http://otegaruhp.com/tokoushouji/html/\\_TOP/](http://otegaruhp.com/tokoushouji/html/_TOP/)

平成23年12月28日発行

東京都公立小学校事務職員会

発行 会長 岩上 直人 (板橋区立北前野小)

編集 広報部長 小野 明 (品川区立台場小)

〒140-0002 品川区東品川1-8-30

TEL 03(3471)3397(代)

広報部 岩瀬たつ子 (世田谷区立中町小)

加藤 義則 (世田谷区立世田谷小)

渡部 正徳 (北区立西浮間小)

## —特集1— 私の3. 11

### 私の3. 11

板橋区立北前野小学校 岩上 直人

丁度その日は、都公小事の研究協議会を文京シビックホール5階会議室で行なっていました。地震の時は、大きくゆっくりした揺れが30分以上も続き、まるで船に乗っているようでした。何回も大きな揺れが襲い、会議は何度も中断しました。窓の外を見ると、10数階建てのビルが左右に揺れているのがはっきりとわかり、屋上の避雷針は、まるで釣竿のようにたわんでいました。生まれて初めて目にする光景であり、経験でした。それでも、会議は何とか終わり、電車が動いていなかったもので、次の会議が予定されている市ヶ谷に歩いて向かいました。

出席者が少なく、会議は中止となり、市ヶ谷から歩いて帰宅することになったのですが、途中すごい人波と渋滞で、あらためて東京の人口の多さを感じました。建物や道路にたいした被害がなく、交通機関がマヒしただけで、こんな状況では、もし、直下型地震で建物や道路に大きな被害が出た場合、相当な混乱が起きると歩きながら思いました。自分たちが暮らしている日本という国が、いかに危うい大地の上に成り立っているのか、毎日の平凡な日常が、どれほどありがたいものなのかを強く感じた一日となりました。いまさらながらですが、約束された未来など無く、日々生かされている自分は、無事な一日に感謝し、一日一日を大切に、一瞬一瞬を精一杯生きなければと思っています。

(都公小事会長)

### 私の3. 11

昭島市立武蔵野小学校 植本 愛子

3月の評議員会だったその日、JRはすでに運休。コンビニでお金と食糧を調達、水道橋駅で3時間待ったタクシーを断念し、動きだした地下鉄で新宿に着いたのは日付が変わる頃でした。地下街で人気芸人とすれ違い、地上で家族や田舎(福島)の無事を確認して一安心。荻窪でタクシーに乗車出来たのが夜中の3時、家に帰り着いたのは明方4時半でした。荻窪でタクシーを待っていた様々な人。1時間に3台しか来ないタクシーに一人で乗り込む人。自分の番になり方向が同じならと声を掛け4人で乗車しましたが、列の後方には杖をついたご老人もいました。そんな事でも次に日から後悔しています。まして、津波に飲み込まれる人をただただ見ているしかなかった人々の後悔はどれ程だろうと、どれ程続くのだろうと思います。

東北人としてこの未曾有の大惨事を、記憶よりは記録に残そうと、その日からの新聞をずっととっています。

(都公小事調査部長)

私の3. 11

港区立麻布小学校 内野 和美

平成23年3月11日午後2時46分それは突然やってきた・・・・・・

この日私は、午後の都公小事の学校事務研究会に出席するために日常の業務+αを行っていた…、3月14日(月)3年生の課外授業があり、その講師に謝礼を渡すための請求書を担任に持ってってもらわないと、経理の流れ書と共に作成し請求書を渡すことに、その他の仕事も立て込んでおり、午後2時30分からの学校事務研究会に遅刻は確実だなと思い仕事を出来るだけ早く終わらせ出席せねばと頑張っていた。時刻が午後2時30分を過ぎ「シビックに行っていけないのに……」と、職員室の向かい側の机の栄養士さんに話していた。出がけには、よくいろいろなトラブルが起こる私の日常のように、この日も、出がけにトラブルが発生！まだ出かけられないよ・・・・・・、またかよ・・・・・・。

午後2時40分過ぎ、ようやくトラブルも解決！出かけられるよと思い、職員室の栄養士さんと主幹教諭に「それじゃ、事務室にバックと書類を取りに行き、出かけるね」言った直後、それはやってきました。

ゴゴゴゴ・・・・・・、ゆらりゆらり・・・・・・学校の校庭から見える東京タワーが大きく揺れています。自分がいる学校の地面も揺れている・・・・・・。大の大人であっても、初めて「これ、やばい」直感で思いました。すぐに職員室の机の下に隠れました。幸い数年前からの痩せる努力の甲斐もあり、机の下にすんなりと入り込めました。栄養士さんと面と向かって、「これで死んじゃうかもしれないかな。」「こんなに怖い地震は、初めて」こんなことを話していました。地震も落ち着き、校庭を見ると児童がいます。帰るためにみんなで集まっていた子どもたちです。地震のために帰りに帰れない状況になっていました。学校長が校長会で区内の小学校へ出張に出かけた後だったので、児童を安全に自宅に帰すためと、学校内にいる児童の安否確認のため、学校にいる全児童を校庭に集合させるよう指示を出しました。副校長はパソコンで、港区立麻布小学校緊急メールを送信しようとしていて、児童に気が回っていなかったようです。こんなときに校長が出張だなんて・・・・・・、誰か中心にならないといけないと思い、急遽、出張するはずだった私が、いろいろな指示を全体の教員に出しました。以前勤務していた区で、災害対策のために地域の住民と学校の管理職、警備主事、用務主事、打ち合わせを何度も行っていたものが、なんか役に立ったみたい・・・・・・。児童の安全確保、児童の自宅へ緊急電話を使い、家族に迎えに来てもらう引き取り、名簿を使い、誰がいるか、誰が迎えに来たのか、残りは誰がいるか、細かなことまで、その時の毎年何回もの打ち合わせをし、実地訓練を行いという経験がゆとりを作ってくれたようで、指示を出すことが出来たのです。校長から学校に連絡が入り「今、新橋にいる。ゆりかもめが発車する間に地震が起こり、交通機関はすべて止まっている。歩いて帰るしか方法がなさそうだ」とのこと。学校は今現在、児童の引き取り下校をさせている、緊急時優先電話を使い児童の自宅の固定電話にかける方法を行っている旨伝えた。携帯電話は全くといっていいほど繋がらない状況であった。TVのニュースでは東北各地の港が映し出され、津波の警戒が放送されていた。児童の自宅に連絡を続けてる間、校庭には、近くのオフィスビルや、六本木繁華街からの避難者が集まっていた。120から130人くらいだろうか、日本人のほか様々な国籍の人がいる。そちらの対応をはじめ、児童の下校、安全指導、多種多様の作業をわずか15人程度の職員で対応をし続けました。

3月なので、日が落ちるのも早く、だんだんと外も寒くなってきました。児童の中には、自宅や、保護者に連絡がつかない児童が数名おり、その後も教員に連絡を取り続けてもらい、ようやく午後6時7分、唯一、学校に残されていた最後の児童の親御さんが学校に到着し、校長室で引き渡され児童の帰宅対応は終了した。

その日から、六本木地区の青少年委員の活動でスキー教室が開催されるということがあり、学校には参加するための児童が集まってきました。学校の前の道は、大渋滞・・・・・・。とても、バスを乗りつけて、路上に停めるなんてことが出来る状況ではないのと、車自体が動ける状況ではなくなっているあり様でした。午後6時15分過ぎ、徒歩で校長が帰校。学校の教職員は外部避難者対応を本格的に始めている。赤ん坊を抱っこして避難してきているお母さん、近所の年配の男性、女性、

日本語が分からない観光客の団体グループ、PCを持ち込みブログなどを載せている男性、好き勝手やってる人たちを、案内し体育館に避難してもらっていた。教育委員会指導室からは教職員7時まで待機との指示があり、我々職員のほうもおなかの空きはじめる時間になってきた。職員の食事を調達するにしても、コンビニエンスストアもほとんど商品がなくなっていたが、何組かで分かれ、インスタントラーメン、パックのご飯、卵、レトルト食品、カップラーメンなどを買い込んで、さながら合宿のような状態で、夕御飯を職員全員で交代交代でいただいた。幸い電力や、ガス、水道などのライフラインがダウンしていなかった東京では、電子レンジなども使え、あたたかい食事が出来たのが何よりありがたかったです。東北の被災地の方は、このような食事や温もりがなく、非常につらかったのではと胸が痛くなる思いです。

その後4割職員を残し、他は帰宅できるようであれば、順次帰宅との指示があった。本校では、男性職員の校長、副校長、主幹、若手の教諭二人、事務職員、幼稚園の教員二人、教頭（現在は副園長）、女性の用務職員、栄養士、図工専科、音楽専科、警備職員、外部委託のガードマン、が午後10時までいた。そのうち幼稚園の教員以下の職員は帰宅。それ以外の学校職員は、教育委員会からの要請もあり学校で宿泊ということになってしまった。学校前の通りはその間もすべて車で埋め尽くされ、時間無制限の駐車場のような状態であり、歩いて帰る人の列が途切れることなく続いていた。何組もの人が、御手洗いを貸してください、「渋谷に出るにはどう行けばいいですか」、「人形町から歩いてきました、品川駅はどの方向に歩けばいいですか」などと不慣れた状態の中歩いていました。

夜の10時を過ぎても人がいっぱいです。普段ではあまり考えられない状態、人が何時になっても途絶えることのない都心ビジネス街は人の多さでは、日中のようでした。その同じ時刻ごろ大江戸線が動いている情報が入ってきました。依然日比谷線、南北線は動いていない、大多数の人が帰れない状況であったことは、明白でありました。そのまま日にちが変わり、12日（土）になりました。人が訪ねてきたり、電話での問い合わせが殆ど無くなったので、みんな休みましょうということになりました。事務室で全版の段ボール（廃材の物がたまたまあった）を床に敷き、非常用の毛布を災害備蓄倉庫から引っ張り出して来て、寒さを感じながら（エアコンがあったのですが、床のほうは非常に冷たく寒かったです。）2, 3枚の毛布に包まって眠りにつきました。が、午前1時45分くらいころ、日比谷線の六本木駅から締め出された帰宅困難者が、泊めてもらいたいのですということで尋ねて来て、その人たちを体育館へ案内し、毛布を渡し休んでもらいました。

夜勤を初めて体験しましたが、非常につらいなあと感じました。

翌朝4時00分頃目が覚めて、宿泊の避難民に食事を提供するために、大量の湯を沸かす作業から入りました。アルファ化米の五目御飯です。50人前一箱の段ボールから袋やしゃもじ、割り箸、パック、輪ゴムのセットを取り出し、熱湯をご飯と具材に回しかけて作ります。お湯をたくさん沸かしたのですが、とても足りなくて、熱湯でなくても時間をかければ出来ますということで、水を加えたぬるま湯にして作りました。

始発電車の時間になり、各自電車が動き出すだろうということで学校を出ていく算段を付けはじめていました。学校いや、行政側としては交通機関の情報などを、避難者に提供をしなければと思いい、電車の運行状況、不通区間等を調べて提供をしました。

しかし、動いている電車が少なく、宿泊された方で東武伊勢崎線方面に帰宅される方は、北千住まで出してもらわないと状況が把握できませんとの返事しかできなく、情報がないということが、これほどまでに大変なことなんだということのを再認識しました。

地下鉄線内も、ダイヤどおりかどうか、定かではなかった。また、JR線は不通区間が多いとの情報は、ネットで確認できたのが幸いでした。

ああいった震災があると、固定電話でないと電話が繋がらないということを実際に、認識し、携帯電話は便利であるが、非常に弱いインフラであると、胸に刻みつけました。

インターネットは、メールサーバーがダウンすると、役所登録の緊急メールも使えなくなってしまう。実際に配備されている防災課のFAXなども活かされなかった。通常のFAXが一番多用されていた気がします。

そして、学校をあとにされる方々に朝早くから作った五目ごはんなどを渡し、帰宅支援をしました。

一通りの避難者が避難し終わった後に、学校の残っている教職員で、昨日の学校対応と教育委員会、区役所の防災課、の対応について時系列に発災時、地域住民等避難状況時、児童避難引き渡し完了時、帰宅者等の支援時、宿泊者の対応、夜間対応、学校を離れる避難者支援、等について報告をまとめました。そしてようやく午前11時00分をもって、避難所待機を解かれました。今回の震災については、いろいろな関係のお話があると思いますが、とても良い経験になったと思います。東北地方の被災者の方、私の母方の祖父母、叔父叔母が、釜石に住んでいたこともあり、その時からの友人、知人などの多くの方が命を落とすことになり、悲しさは慮ることができませんが、私たち東京に勤め、住む人々にとって、東京直下でなかったことが唯一の救いなのかもしれません。ただ、こういった状況に陥ることがあった場合、もう少し対応に、确实さと堅実さを求め、大きな被害を受けた時にダメージを少しでも軽減できるような、支援や業務が出来ることこそ、学校職員の、地域に根差した学校教育に携わる職員の力量によるものではないかと感じました。他人事と考えるので自分の愛する街だから、自分の愛する人たちだから、少しの力でも分けられれば、より良い復興、より早い復興、より良い支援が出来るのではないかと感じました。学校事務職員であったからこそ、直接に体験できたことだったと思います。 (都公小事副会長)

### かいほう第177号予告

1. 都公小事研究大会参加記
2. 特集①「私の3. 11 II」
3. 特集②「校務改善最前線II」

原稿募集！ ・文字数 : 800～1200字  
・送付期限 : 2月28日(水)  
・形式 : ワードまたは一太郎データ  
・送付方法 : 電子メールまたはFD郵送  
・送付先 : 品川区立台場小学校 事務室 小野 明 (広報部長)  
〒140-0002 品川区東品川1-8-30  
onono-akr@city.shinagawa.tokyo.jp

### 編集後記

3. 11は、私たちに様々な傷と、教訓を残しました。

この「かいほう176号」が皆さんのお手元に届く頃には年も明け、震災後10か月を迎えます。都会に住む私たちも、被災地の方々のご苦勞に比べれば取るに足らない程度ですが、不便さを共有し、不思議な連帯感が生まれた一年でした。特集は、今後も続きます。

「副校長の不足」が叫ばれています。「校務改善ニュース」は、皆さんお読みになりましたでしょうか？個人が疲弊すると組織も疲弊し、負の悪循環を繰り返しながら、やがて組織全体が崩壊していく事を、私たちは歴史の授業で学んできたはずなのですが、いざ自分の事となると、流石に慌てます。身を寄せ合うように不便さに耐え、知恵を出し合って乗り切ろうと励まし合った、震災直後の感覚を、今、私たちはもう一度、思い出すべきなのかも知れません。

(広報部長 小野 明)

## 「標準的職務」と「校務改善」

立川市立第五小学校 齋藤 直美

### 1 2つの改革

私は「かいほう」174号で、多忙を極める学校現場のために、事務職員は「標準的職務」（通知：平成22年3月）について、プラス思考で受け止めてはどうかという考えを寄稿させていただきました。丁度その原稿を書いている時期（平成23年2月10日）都教育委員会から、「小中学校の校務改善の方向性について」（以下「校務改善」）が発表されました。私もこの新しい取り組みについて考えてみました。

### 2 共通点と問題点

東京都教育委員会は「校務改善」について、平成23年度モデル校を定め実践を行っており、その効果を検証し、平成24年度からは全ての小中学校で本格実施する、との予定を立てています。多くの方が予測されているとおり、今年度末には現場に取り組みを促す何らかの通知が出される、と私も思います。しかしこのことで、「標準的職務」と「校務改善」という2つの改革が並行し、事務の現場で混乱してしまうのではないかと懸念しております。

2つの改革の共通点は、かいほう175号で岩上会長が言及されました資料、「校務改善の方向性について」（概要）の第4ページですが、2月当初に発表されたものが改訂され、各分掌の役割がより明らかに表になりました。その結果、「標準的職務表」と酷似するものになりました。しかし、表の役割を担う者は、「標準的職務」では事務職員であるのに対し、もう一方は「経営支援部（仮称）」です。

「標準的職務」は、地区により本格実施もしくは、検討をされていると聞きます。私は、東京都教育委員会がこの両者の位置づけを明らかにし、各地区が取り組むための環境を整えていただきたいと思います。また、取り組みが円滑に進むためには、現場はもとより区市町村教育委員会への説明も必要であると思います。

### 3 「校務改善」について

「校務改善」と「標準的職務」は、教育庁の管轄部署は違いますが、一年を経て学校の改革に一步踏み込んだ内容に進化していると思います。「校務改善」は、よく読みますと副校長の多忙化は**小中学校に関係する職員（部署）全体で取り組まなければならない大きな問題である**と分析しています。副校長の多忙が学校全体の問題であることは、皆さんも現場において肌で感じていると思います。例えば、教員の児童の指導上の報告、相談等を受ける時間が十分に取れず解決が遅れることや、多忙が原因と思われる事故が起こることはないでしょうか。私たち事務職員も教員と同様に、事務の状況の報告、説明等をする時間の確保に苦勞する等の影響を受けていると思います。

この大きなプロジェクトの輪の中には、それぞれ（教育庁、区市町村教委、学校、また、学校の中にも校長・副校長・主幹・主任教諭・事務など）に役割があります。ですから、「**校務改善**」は**事務職員にも役割がありますが、だからといって“事務職員だけに業務を負担させればよい”、という狭い考えに基づいたものではない**と私は思います。

### 4 私たちにできること

学校に求められている役割が増え、学校を取り巻く環境は大きく変化しています。学校は組織や仕事の進め方についても大きな変革をし、時代の流れに適切に対応していく必要があると「校務改善」は語っているのです。このような状況の中で、学校事務職員が自主的に事務改善に取り組んできた事実はあると思います。しかしながら、それは「個」としての取り組みであり、全体としては従前と変わっていないように感じています。私は、学校の多忙化は全都の問題であると大局的に捉え、事務職員が、個人ではなく皆でできること（役割）を真剣に考える必要があると思います。

## 今感じていること

調布市立神代中学校 鈴木 裕美

4月に中学校に異動し、都公小事を卒業しました。

異動した年の配慮で、今年度は事務職員会の役員も無く、都公中事の支部長にもならず、静かに、勤務する学校のことだけを考えています。こんなに外に行かないのは何年振りでしょうか。研究をする、研究のための準備をする、研究のための段取りを確認する、といった作業を、通常業務を行いながらこなすことは大変な労力であることを改めて感じました。都公小事の理事の皆さん、評議員の皆さん、日々ご尽力いただき本当にありがとうございます。この場をお借りして、御礼申し上げます。

国の人事院勧告と、勧告を無視した教員の給与7.8%削減案。定年が引き上げられ年金の支給年齢の引き上げや子ども手当の制度改正など、振り回されることが続きました。子ども手当の制度改正では、給与事務も煩雑になったり、扶養控除の変更で年末調整事務で確認作業がひと手間増えたり、様々な動きが直接給与事務に関わってきました。

国だけではありません。他にも、大いに振り回されることがありました。「標準的職務」という言葉が飛び交ったのは2年程前だったのでしょうか。昨年は「校務改善」「経営支援部」。今年はこれらのモデル校が抽出され、10月には実施報告がありました。たった2ヶ月程度の施行期間で本当に成果があったのでしょうか。結論を急ぎすぎではないのでしょうか。都の行った昨年度のアンケート結果から、「経営支援部」の設置と言う方法しか導き出せなかったのでしょうか。

経営支援部を効果的に運営するためには、学校全体での取り組みが不可欠なはずですが、今までの学校の流れを変える場合、2ヶ月で変えることは非常に難しいでしょうし、成果をあげることはもっと難しいと思います。以前見た新聞記事ですが、着任された校長先生が、校内の分掌を見直し、学校を変えるのに6年かかったと書かれていました。「校務改善」を否定するつもりはありません。副校長の多忙すぎる毎日を改善できるなら学校全体での改善は必要なことかと思えます。でも、各学校単位で取り組むだけで副校長を多忙な仕事から救えるとは思えません。事務職員が副校長の仕事の一部を担えばすむことなのか、副校長を補佐する人員を増やせばすむことなのか、主幹教諭に副校長の仕事を分担すればよいのか・・・そう簡単にはいかないように思います。学校全体が多忙なのですから。

学校を知っている私たち事務職員が、校務改善を積極的にとらえ、検討してよいのではないかと考えています。学校運営にとって、教職員にとって、どう改善されるのが望ましいのか。副校長の多忙改善に、教職員の多忙改善に、事務職員が積極的に提案して（副校長の仕事を負うと言う意味ではなく）いけたらよいのに、と感じています。事務職員も超多忙ではありますが、きっと都公小事は前進することを選ぶと思います。

(平成18～22年度広報部理事)

いるので、仕事も何とかこなしていけるようになります。現在、北区では、年度当初に転入してきた事務職員に対する研修も実施しています。  
私もこの仕事に就いてから色々な学校行事に関わっています。その中で、将来活躍する生徒たちと身近に話し、仲良くなれることも楽しみのひとつです。

■ 現在の仕事内容を教えてください

事務室は、都事務1名・区事務1名・臨時職員2名と4人体制です。主に都事務は、庶務・契約・施設管理・人事を、区事務は、学事・給与・旅費・福利厚生・私費会計を担当し、お互いに補いつつ、仕事をこなしています。

また、設備の故障等、すぐに対応してはならない事が発生した時などは、『気がついた人、その場にいる人がやる』という気持ちで



体育祭前日、17時過ぎに職員でドラミッドの練習。上の右端が筆者。本日は一番上に乗りたかったのに

当たりです。このほか私は、本校のホームページを作成する広報を担当しています。学校中の情報を集めるのが大変ですが、その分やりがいもあります。

学校教育活動は、「入学式に始まり、卒業式で終わる」など行事を中心に進みます。年度当初の時期には、予算の編成・入学式の準備・教職員の異動に伴う手続き等、仕事が集まります。

こうした中では、校長や副校長をはじめとする先生方や区教委との緊密な連携や情報交換が大変重要です。

しかし、4・5月を過ぎると、少し一段落します。学校がある日は休暇も取りにくいのですが、夏休みなどの長期休業中は、逆に1週間以上休むことができます。心身のリフレッシュが十分でき、旅行や趣味の登山に出かけたりしています。

■ 現在の仕事での印象深い出来事は？

本校に着任してすぐに「初年度調弁」の仕事に携わりました。平成21年度から、新校舎建築に伴い全ての什器類等を購入することになり、そのための予算要望から購入・設置までの仕事です。

北区では、30年ぶりの新校舎建築で、ノウハウを知っている人がなく、北区教育委員会と連携して2年がかりで計画実施しました。私自身も、初年度調弁は20年ぶりで校舎図面にとらめっこして、購入した家具が実際に入るか逐一確認しながら進めました。

先生方の協力も不可欠です。特に実技教科の先生方には大変な思いをしながらも取り組んでいただき、無事新校舎に移転できたときの気持ちは、最高でした！

■ ご自身の職場PRを！

本校は、江戸時代から続く桜の名勝「飛鳥山」から徒歩15分の地にあります。

また、メインコンセプトの「つながる学校」により、小・中の職員室・事務室は隣り合っています。

学校規模は、生徒数534名で、校長・副校長のほか、事務、専門職や教員等を含め37名の職員が勤務しています。

新校舎のため見学者も多く、業界紙等で多く取り上げられています。本校では、「ノーチャイム」を実施しており、テレビ番組でも取り上げられました。チャイムが鳴らないため、子供たちは、時計で確認しながら授業1分前着席を心がけています。



校庭からの教室棟

クローズアップ都庁  
TOP > クローズアップ都庁一覧 > 詳細  
2011年10月21日  
教育庁

小中学校事務の仕事を紹介！

～公立学校であなたの力を発揮してみませんか！～

『学校事務ってどんな仕事？』『小中学校の事務って都の職員？』のような質問をよく耳にします。わかっているようで意外に知らない学校事務についてご紹介します。

○ 学校事務はこんな仕事

学校事務の主な勤務先は、区市町村立の小中学校(約2000校)、都立の高等学校(約200校)、盲・ろう・特別支援学校(約50校)、学校経営支援センター(6箇所)と、数多くパラエティーに富んでいます。

学校事務は、庶務や経理の管理業務、学校特有の事務である学事のほか、学校経営を円滑に進めるための校内調整や渉外業務があります。これらの仕事を通じ、事務能力、調整能力を身につけることができます。

学校経営支援センターでは、都立学校の教職員の人事や給与等の人事管理、物品の集中購買、施設の修繕等に対する業務支援を行います。

学校事務の仕事は、このように教育の最前線で、学校教育に必要な人やものに関わり、教師と子ども達の「より良い学びの環境」の創造につなげていきます。

○ 小中学校の事務はどう違うの？

ここまで、学校事務について説明してきましたが、小中学校の事務は、都立学校とどう違うのでしょうか？  
小中学校は、中高一貫校の都立中学校以外には区市町村立の学校です。運営は各区市町村教育委員会が行いますが、職員の大部分は、「都費負担職員」という、都が採用した職員です。都費負担職員は、都の職員でありながら、身分は区市町村職員となります。通常、各学校には都費負担の事務職員が1人配属されますが、区市町村の事務職員や、非常勤職員と一緒に仕事をする場合もあります。

都立学校とのもう一つの大きな違いは、基本的にはひとりで行うため、業務内容がとて幅広いところです。それでは、短い期間で広く知識を学ぶことができます。

それでは、小中学校で実際にどのように学校事務の仕事をしているのか、中学校の職場で活躍している方にお話してもらいました。どうぞご覧ください。

北区立王子桜中学校 事務室 湯村 まさみさん

■ 自己紹介をお願いします

北区立王子桜中学校勤務の湯村まさみと申します。私は、学校事務で採用され、高校2校、特別支援学校3校を経験し、15年前に中学校勤務となりました。

■ 学校勤務を希望したきっかけは？

当時は採用試験では、事務A(一般事務)と事務D(学校事務)の枠があり、私は、学校事務を希望しました。私の通っていた都立高校の恩師に「あなたは、学校での仕事に合っているから学校事務を受けなさい。」と指導されたことなどきっかけです。

15年前、都立学校から中学校に異動するとき、1人または2人勤務ということで大変心細く不安でした。また、仕事も都立学校では、各職員が担当分掌をやっていた良かったのですが、小・中学校は、オールマイティに仕事をこなさなければなりません。

しかし、区内の小中学校職員会(事務職員の研究団体)がとて協力的で、実務研修体制も充実して



北区立王子桜中学校 湯村まさみさん


☆教育庁が小中学校訪問を主催

**教育庁主催**

## 「小中学校訪問のご案内」

～小中学校は、児童・生徒に「教育」という行政サービスを提供する場所です～

学校事務職員の役割は、学校教育に必要な人やものにかかわり、教師と子供達の「より良い学びの環境」を創造することにあります。  
学校現場では、「意欲があり、子供が好き」という方を求めています。  
東京都の次代を担う子供たちの教育のために、これまで培われた知識や経験を活かしてみませんか！

日 程	訪 問 学 校
平成23年11月11日(金) 15時～17時	北区立王子桜中学校
対 象 職 員	予 定 人 数
学校事務に興味のある事務職員	20名 (申込者多数の場合は抽選)
申 込 み	そ の 他
下記担当宛に、メール又は電話連絡 申込期限：11月4日(金)	原則、研修・職免の扱いではなく 休暇扱いとなります
訪 問 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設見学</li> <li>●講 演</li> <li>●事務室見学</li> <li>●質疑応答</li> </ul>	

☆教育庁が都庁食堂で給食風のメニューを提供

各食堂50食限定  
ワンコイン  
500円

## 平成23年10月25日(火)限定企画 そだ、給食をたべよう!!

教育庁では、『なるほど！ザ！！小中学校事務』と題し、小中学校事務の魅力を伝えるため、様々なイベントを企画していますが、その一環として「そだ、給食をたべよう!!」と題し、給食スタイルでのランチを日程及び数量を限定して提供いたします。  
職員食堂での「学校給食スタイル」でのランチを通して学校の雰囲気や味わってもらい、学校に少しでも興味をもっといただければと考えています。  
皆様のご利用をお待ちしています。

**実施日：平成23年10月25日(火) 1日限り**

- **東京ケータリング(一庁32階北側)**  
あげパン、温野菜入りクリームシチュー、ヨーグルト、牛乳、フルーツ(バナナ)
- **西洋フード(一庁32階南側)**  
あげパン、コーンクリームスープ、ハンバーグ、ナポリタン、蒸し野菜、牛乳、ヨーグルト
- **アターフル松屋(二庁4階北側)**  
鳥の竜田揚げ、けんちん煮、コッペパン、ジャム、牛乳
- **ニュートーキー(二庁4階南側)**  
ミートボールと野菜・ソーセージのクリームシチュー、温野菜サラダ、ロールパン2個、イチゴヨーグルト、牛乳

○今回、各食堂で提供するメニューは、学校給食をイメージしたものです。  
○実際の学校給食とは、作業工程等が異なっています。

**問合せ先**  
教育庁総務部総務課学校事務人事係  
電話 03-5320-6723 内線 53-127

(給食イメージ)

☆都が庁内一般職員公募人事で「学校事務」を募集

平成23年度 庁内一般職員公募人事(公募職務一覧)

※ 別表

コード	区分	項目	配属予定部署	職種	職 級	公募人数	事業・業務内容	求める人材像(能力・経験など)	職務についての問合せ先
53	専門性	公金管理	会計管理局 管理部 公金管理課	事務	3級職以下	1～2名	歳計現金及び基金について、安全性及び流動性を確保したうえで、効率性を追求した運用を行うため、主として次の業務を行う。 1 預金先金融機関、債券発行体の財務内容分析・評価及び経営状況の監視 2 日々の金利状況を勘案した定期預金の設定、債券の購入 3 金融商品の調査・分析を踏まえた新たな運用対象商品の選定 4 運用実績の検証、及び翌年度の資金管理計画の策定	折衝能力、資料作成能力及び協調性に優れ、かつ、次のいずれかの要件を満たす者。 1 金融機関での勤務経験がある者(特に資金証券業務に従事した経験のある者) 2 民間企業の決算分析に関する知識がある者(特に金融機関の決算分析に関する知識がある者) 3 資金運用の経験があり、債券の取引や金融機関との交渉に関する知識・経験がある者 4 証券アナリスト、ファイナンシャルプランナー等の資格を有する者	会計管理局管理部 総務課庶務係 担当 水嶋 内線 45-131
54	専門性	新会計制度の推進	会計管理局 管理部 会計企画課	事務	2～3級職	1～2名	単式簿記・現金主義会計に加えて、国に先駆けて初めて導入した複式簿記・発生主義会計を的確に運用していくため、様々な業務を実施する必要がある。具体的には、以下のとおりである。 ・複式簿記・発生主義会計による財務諸表の作成 ・行政における財務諸表の分析手法の開発 ・行政における会計基準についての継続的検証 ・新会計制度の全国の自治体への普及拡大 ・制度運用の一層の改善や各局への指導	会計制度改革として、複式簿記・発生主義会計の運用という先駆的な施策を担当するポストにおいて、柔軟なセンスを発揮でき、折衝能力及び協調性が高く、困難な職務に前向きに取り組む強い意欲を持つ、次のいずれかの要件を満たす者。 ・一般会計を所管する局の予算担当の経験があること。(財務諸表に関する基礎的知識を有する者が望ましい。) ・公営企業局の会計事務の経験があること。 ・準公営企業会計の会計事務の経験があること。	会計管理局管理部 総務課庶務係 担当 水嶋 内線 45-131
55	専門性	学校事務	教育庁都内の 小中学校	事務	1～3級職	若干名	○学校経営及び管理に関すること (総務、人事、給与、財務、学務、福利厚生) ・勤務体制：1名 ・勤務時間：概ね8時30分～17時15分	○小中学校事務職員には、学校長の経営方針に基づき、行政職としての立場から校長、副校長を補佐し、円滑な学校運営のために業務を遂行することに加え、学校運営に積極的に参画することが求められる。また、平成24年度から校務改善の取組(学校の諸課題を組織的に解決するための「経営支援機能の強化」など)を本格的に実施する。校務改善の取組は、個人の能力に頼らず、環境変化に柔軟に対応できる効率的な学校運営体制づくりを目指している。よって、組織運営体制の改善に意欲のある方を募集する。 ・学校職員として業務に望む意欲と熱意のある職員 ・情報、財務、施設設備等のマネジメント能力のある職員 ・調整能力があり、資料作成能力及び協調性に優れている職員 ・心身ともに健康である職員 ・広い視野で物事を考えることができ、管理業務の知識が豊富である職員 ・庶務及び経理経験がある職員 ・パソコンの操作が得意である職員 ・組織運営体制の改善等に携わった経験があるとより望ましい	教育庁 総務部 総務課 担当 高橋(学校事務人事係) 内線 53-127